

人間発達学部  
子ども教育学科案内 2011

# 新・せんせい

## 【都城キャンパスACCESS】



宮崎県都城市立野町3764-1  
■JR日豊本線「都城駅」より  
宮崎交通バス「大学前」下車すぐ



## 南九州大学の個人情報の取り扱いについて

【個人情報の利用目的】  
本学では、資料調査やアンケートへの回答にあたり、資料の発送や連絡をとるための手段として名簿、住所、電話番号、メールアドレスなどを管理しています。全ての項目に必ずしも必要ではありませんが、情報が不足している場合は資料や連絡がとれない場合がありますので、予めご了承ください。

【個人情報の第三者への提供】  
本学は、提供された個人情報を本人の承諾なしに第三者（第三者とは、本学以外の人）に提供することはありません。但し、以下の場合に必要最低限の情報を提供することがあります。

- (1) お問い合わせいただいた内容について本学の関係者から回答が得られなかった場合
- (2) 事前に竹崎経済学部の承認した外部機関に提供を受ける場合
- (3) 法律に定められた適法な手段による開示要求を受けた場合
- (4) その他、上記に準ずる案件が発生した場合

【個人情報の管理の委託】  
本学では、上記を目的とするため、本学が定める個人情報取り扱いの基準を満たす企業（委託業者）に委託を委託しています。委託先に対しては、契約による適切な管理を義務付け、責任をもって監視しています。

### 【個人情報の保護の任意性】

本学では、資料調査やアンケートへの回答にあたり、資料の発送や連絡をとるための手段として名簿、住所、電話番号、メールアドレスなどを管理しています。全ての項目に必ずしも必要ではありませんが、情報が不足している場合は資料や連絡がとれない場合がありますので、予めご了承ください。

### 【個人情報の開示・訂正・削除】

保有個人データにおける個人情報開示は、原則として本人に限り、開示・訂正・削除を求めたこととなります。開示の方法については「個人情報に関するお問い合わせ窓口」にお尋ねください。保有個人データにおける個人情報開示の請求は、あらかじめ開示の範囲、開示の範囲について、訂正・削除の依頼があった場合に限り、合理的な範囲（合理的な範囲とは、開示の範囲内において開示が認められる範囲）において開示いたします。なお、保有個人データにおける個人情報開示については、本学では開示・訂正・削除の請求をもち、対応しませんが、ご了承ください。

### 【個人情報の管理責任者】

個人情報に関するお問い合わせは、保有個人データにおける個人情報開示・訂正・削除の依頼は、下記へご連絡ください。

### 【個人情報保護に関するお問い合わせ先】

南九州大学 個人情報管理責任者 志保 啓彦  
TEL.0120-3739-20 FAX.0985-83-3435 E-mail: myushi@nankyudai.ac.jp



【都城キャンパス】  
・人間発達学部/子ども教育学科  
（定員80名）  
・環境福祉学部/環境福祉学科  
【宮崎キャンパス】  
・健康栄養学部/管理栄養学科・食品健康学科

〒880-0032 宮崎県宮崎市篠島5-1-2 入試広報課  
TEL.0985-83-3435 FAX.0985-83-3438  
☎0120-3739-20  
http://www.nankyudai.ac.jp



【都城キャンパス】  
・人間発達学部/子ども教育学 科（定員80名）





## 愛は「EYE」を育くむこと

「うわーい、もっと高くもちあげて!」。  
「ぼく、せんせいのことだーい好き」。  
楽しい気持ちはすぐに言葉に表せても、  
苦しい気持ちはなかなか表現できない子どもたち。  
その表情や仕草、ふるまいまでもつぶさに観察し、  
子どもが発するサインを見逃さないこと。  
そう、南九州大学が育みたいのは、それができる力。  
深い愛情を持ちながら  
冷静な視点で子どもの心を観察・理解できる。  
そんな“せんせい”たちなのです。

### キーワード①

#### 大切なのは子どもたちの心の理解

子どもが心身ともに健やかに育つことは、国や時代を問わず、全ての人々の願いといっても過言ではありません。しかし最近では、社会状況や人々の生活状況の変化の中でメンタルヘルスに関する課題を抱える子どもたちが急増しており、その対策への取り組みのため、特に、子どもの心の発達に関する専門家の急務な育成が求められているのが現状です。

『子どもの心身』にも優れた  
“新・せんせい”のための科目例

- 発達心理学Ⅰ・Ⅱ
- 障害児心理学
- 親子関係論
- 幼児理解
- コミュニケーション教育



## 地域で育む生きる力

「おじちゃん！泥まみれになっちゃった。」  
「頑張らんと、おいしいご飯が食べられんぞお。」  
汗まみれの顔を真剣に、また泥にまみれる子どもたち。  
「今日はみんなで田植えをしたよ。」誇らしげな声。  
南九州大学が育みたいのは、  
子どもたちの笑顔と、世代を越えて地域で育ち、育んでいく力。  
そう、その真ん中で。  
「地域」と子どもをしっかりとつなぐ、  
「せんせい」づくりを目指していくことなのです。

### キーワード②

#### 地域で子どもを育み、見守ること

本格的な少子高齢化社会の到来に加え、最近では地域における家族間の付き合いも年々減少し、ひいては子どもを取り巻く人的環境が、ますます空疎化しつつあります。そこで現在、保護者や地域の人たちの意識を高め、子どもとその親、そして地域との交流を図ることにより「地域で子どもを育み、見守る」といった地域力の再生が、なにより望まれているのです。

「地域」にも優れた  
「新・せんせい」のための科目例

- 子どもと地域
- 子ども支援地域活動Ⅰ・Ⅱ
- 子どもと手作り遊び
- 子育て支援論
- 地域食文化論



## この自然の すべてが 教室なんだ

大自然は子どもたちの創造力を膨らませる宝の山。  
自然が与えてくれる感動や、  
自然との触れ合いのなかで、  
エコロジー（生物界の共生）の大切さを感じることに。  
それが南九州大学の願う教育。  
そう、これからの社会が求めてやまないのは、  
そんな野外環境教育を推進できるリーダー。  
子どもたちに自然に対する感性を育てあげられる  
“せんせい”たちなのです。

### キーワード③

教育から始める環境問題への取り組み  
地球温暖化や自然の減少など、さまざまな環境問題  
を解決し持続可能な社会を作っていくために、  
平成15年、「環境の保全のための意識の増進及  
び環境教育の推進に関する法律」が制定されま  
した。この法律は環境教育の推進を第一目的と  
したもので、現在では小中の「総合的な学習の時間」  
においても自然体験活動などが数多く行われるよ  
うになっています。

「自然環境」にも優れた  
“新・せんせい”のための科目例

- 子どもと自然
- 子どもの野外レクリエーション
- 環境教育論
- 自然と昆虫
- グリーンツーリズム論

# 子ども教育学科の学び 3つの特色

未来を担う子どもたちの健やかな成長のためには、  
 いったいどんな「せんせい」が必要なのだろう。  
 それを実現するのが「子どもの心身」「自然環境」「地域」の3つの学習。  
 本学部でなら、時代と社会、地域が求めてやまない、  
 これからの「せんせい」を目指せます。

## 【子どもの心身】

子どもの健やかな成長を  
見守れるせんせいになる！

子どもの心の発達に対応していくために  
 保育・教育の現場では今、幼児期から児童期にいたる  
 子どもの「発達」と「学び」をサポートできる確かな専  
 門性と実践的な指導力が求められています。そこで本  
 学部では、子どもから大人への心身の成長発達につい  
 て、多面的・総合的に学習していきます。

現場で役立つ心理学に関する科目も充実  
 いじめ、不登校、非行、発達障害、児童虐待といった数々  
 の問題を読み解くためにも、本学部では、たとえば「障  
 害心理学」や「臨床心理学」、「親子関係論」など心  
 理学系の科目も用意。また「コミュニケーション教育」  
 など独自の科目も準備しています。

## GOAL

GOALは、せんせい になる!ではなくて、  
 「理想のせんせい になる」こと。  
 それは、子どもの 心を理解して、  
 子どもの未来を思い 描けるせんせい。

### 【取得できる 資格・免許】

- 保育士資格
- 幼稚園教諭一種免許
- 小学校教諭一種免許

\*本学部では、上記3つの資格・免許のうち、  
 同時に最大2つの取得(保育士資格+幼稚園  
 教諭一種免許または幼稚園教諭一種免許  
 +小学校教諭一種免許の2通りの組み合わせ)  
 を目指すことが可能です。

特色 2  
『地域』の  
学習

特色 3  
『自然環境』  
の学習

特色 1  
『子どもの心身』  
の学習

## 【地域】

地域と子ども、その家族を  
結びつけるせんせいになる！

地域交流をもっと深めていくために  
 年々離れいく地域と子どもたちの絆を深めていくために、  
 本学部では都市との密な連携のもと、さまざまな地  
 域活動を通じて「地域における子どもの育ち」について、  
 体験的に学んでいきます。

日々の授業に加え学外活動にも積極参加  
 「子育て支援論」「子どもと手作り遊び」「子どもと民話」  
 「園芸療法実習」などの科目のほか、数々のボランティア  
 アや子育て支援活動にも参加します。

## 【自然環境】

地球環境の明日を担える  
子どもを育むせんせいになる！

センス・オブ・ワンダーを子どもたちに  
 次世代を担う子どもたちの自然離れを防ぐため、本学  
 部では自然に対する「センス・オブ・ワンダー」(神秘さ  
 に感嘆する感性)を子どもたちに育むことができる知  
 識と技術を学んでいきます。

食育から自然学習まで幅広い科目を用意  
 本学が長年蓄積してきた教育・研究実績を活かし、食  
 育に関する科目をはじめ「環境教育論」「子どもと自然」  
 「学校ビオトープ」などの科目を用意しています。

### TOPICS

学外に開かれた  
3つの活動拠点も  
開設！

本学部では、3つの特色をより強力推進していくために、学外の現場の  
 先生たちと共同研究を行っていく「子どもの学び研究所」と、学内で地  
 域の親子と触れ合える「子育て支援センター」を開設、また「環境教育セ  
 ンター」もまもなく開設される予定です。

### 子ども教育学科のお得情報①

実践的なカリキュラムで違いのわかる先生へ

**4年制大学で  
先生になる!!**

目指すのは、子ども一人ひとりに自信を持って向き  
 合うことができる保育士や先生!そのため本学科では、  
 21世紀の子どもの育成に必要な実践的なカリキュラ  
 ムをたくさん用意。4年制大学ならではの充実した  
 教育で理論と実践を身につけられるようになってい  
 ます。目指せる資格は、保育士資格、幼稚園教諭一  
 種免許、小学校教諭一種免許。本学部では、このう  
 ち2つの取得を同時に目指すことが可能です。

### 子ども教育学科のお得情報②

少人数のきめ細かい実力UP指導

**1年生後期から  
ゼミがスタート**

本学科では、4年間の学びの基礎となる問題発見・  
 問題解決能力を身につけ、自らの興味・関心を確立  
 できるよう、1年次後期からゼミをスタートさせます。  
 2年次以降は「発達」「教育」「環境」などの分野に  
 ついてディスカッションや調査等を通じて各自のテ  
 ーマを追求。特に3~4年次のゼミは各ゼミとも5  
 名程度と極めて少人数なため、きめ細かい指導を  
 受けることができます。

### 子ども教育学科のお得情報③

いつでも小学校・幼稚園とつながる

**連携学校園  
方式を採用**

教育現場の多様な活動の中で、子どもたちはさま  
 ざまな表情を見せます。そんな現場において、未来を  
 担う子どもたちを指導する人間として十二分に対応  
 できる能力を養っていくために、本学科では、現場点  
 で10校園と密な連携協力をしています。これに  
 より学生たちは教育実習に加え恒常的な現場での  
 学びが可能となり、実務に即した実践力を身につけ  
 られるようになっています。

# “新・せんせい”になるための 学習科目と 教員一覧

豊富な科目と多分野にわたる教員陣で  
夢実現に向けサポートしていきます。

■人間発達学部 学びの流れ



## ATTENTION

GPA制度の採用で学習成果がより明確に!

本学部では、学生の学習意欲向上のために、また次の学期の履修計画等にも役立つよう、学生一人ひとりの履修科目の成績に平均値をもとに評点を与える成績評価システムGPA(Grade Point Average)を採用しました。卒業研究に着手するには、GPAのポイントが必要です。また、成績優秀者には表彰制度も用意しています。

## ◎カリキュラム

ベーシックスキル	専門教育科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉と文章</li> <li>情報処理論Ⅰ</li> <li>情報処理論Ⅱ</li> <li>英語コミュニケーションA</li> <li>英語コミュニケーションB</li> <li>英語A</li> <li>英語B</li> <li>統計学</li> <li>スポーツと健康</li> <li>保健講義</li> <li>キャリアデザイン</li> </ul>	<p><b>【入門科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間発達概論</li> <li>子どもと現代社会</li> </ul> <p><b>【専門基礎科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育原理</li> <li>教育と社会</li> <li>教育心理学</li> <li>保育原理Ⅰ</li> <li>保育原理Ⅱ</li> <li>子どもと教育の歴史</li> </ul> <p><b>【子どもの心身】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達心理学Ⅰ</li> <li>発達心理学Ⅱ</li> <li>小児栄養</li> <li>子どもと食育</li> <li>食物アレルギー論</li> <li>小児保健Ⅰ</li> <li>小児保健Ⅱ</li> <li>小児保健実習</li> <li>乳児保育</li> <li>精神保健</li> <li>養護原理</li> <li>養護内容</li> <li>障害児保育</li> <li>障害児心理学</li> <li>臨床心理学</li> <li>親子関係論</li> <li>幼児理解</li> <li>教育相談</li> <li>ライフスキル教育</li> <li>コミュニケーション教育</li> </ul> <p><b>【現代社会と人間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代人のこころ</li> <li>社会学</li> <li>法学</li> <li>経済学</li> <li>国際法概論</li> <li>時事問題研究</li> <li>日本国憲法</li> <li>メディア論</li> </ul> <p><b>【子どもと地域】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと地域</li> <li>子ども支援地域活動Ⅰ</li> <li>子ども支援地域活動Ⅱ</li> <li>子どもと手作り遊び</li> <li>子どもと民話</li> <li>子育て支援論</li> <li>家族援助論</li> <li>児童福祉論</li> <li>社会福祉論</li> <li>社会福祉援助技術</li> </ul> <p><b>【環境とサイエンス】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間と自然の共生</li> <li>環境問題入門</li> <li>生命科学</li> <li>化学の世界</li> <li>物理の世界</li> <li>生物の世界</li> <li>地学の世界</li> </ul> <p><b>【人間の歴史と思想】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都府の文化と歴史</li> <li>民俗学</li> <li>宗教学</li> <li>考古学</li> <li>倫理学</li> <li>歴史と社会</li> <li>伝承文学と民話</li> <li>哲学</li> <li>数学と文化</li> </ul> <p><b>【子どもと自然環境】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育論</li> <li>環境教育実習</li> <li>学校ピオトープ</li> <li>自然と昆虫</li> <li>食と農業</li> <li>農業実習</li> <li>環境問題実習</li> <li>自然観察実習</li> <li>グリーンツーリズム論</li> </ul> <p><b>【子どもの保育と教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職概論</li> <li>教育制度論</li> <li>教育課程論</li> <li>教育の方法と技術</li> <li>保育内容概論</li> <li>保育内容指導法(音楽)</li> <li>保育内容指導法(健康)</li> <li>保育内容指導法(国語)</li> <li>保育内容指導法(算数)</li> <li>保育内容指導法(造形表現)</li> <li>保育内容指導法(人間関係)</li> <li>音楽実習A</li> <li>音楽実習B</li> <li>音楽実習C</li> <li>音楽実習D</li> <li>図画工作実習</li> <li>幼児体育</li> <li>国語</li> <li>社会</li> <li>算数</li> <li>理科</li> <li>生活</li> <li>家庭</li> </ul> <p><b>【子どもと現代社会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>憲法概論</li> <li>憲法実法実習</li> <li>地域文化論</li> <li>地域経済論</li> <li>地域計画論</li> <li>生涯学習概論</li> </ul> <p><b>【子どもと自然環境】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと自然</li> <li>子どもの野外レクリエーション</li> <li>環境教育論</li> <li>環境教育実習</li> <li>音楽</li> <li>図画工作</li> <li>体育</li> <li>子どもの英語教育</li> <li>教科教育法(国語)</li> <li>教科教育法(社会)</li> <li>教科教育法(算数)</li> <li>教科教育法(理科)</li> <li>教科教育法(生活)</li> <li>教科教育法(音楽)</li> <li>教科教育法(図画工作)</li> <li>教科教育法(健康)</li> <li>教科教育法(体育)</li> <li>道徳教育の研究</li> <li>特別活動論</li> <li>生徒指導・進路指導</li> <li>特別支援教育論</li> <li>キャリア教育実習</li> <li>教職実践実習</li> </ul> <p><b>【保育・教育実習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育実習事前事後指導</li> <li>保育実習Ⅰ</li> <li>保育実習Ⅱ</li> <li>保育実習Ⅲ</li> <li>保育実習Ⅳ</li> <li>観察実習(事前事後指導含む)</li> <li>介護等体験(事前事後指導含む)</li> <li>教育実習事前事後指導</li> <li>教育実習Ⅰ</li> <li>教育実習Ⅱ</li> </ul> <p><b>【ゼミナール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども教育入門ゼミ</li> <li>子ども教育プレゼミ</li> <li>子ども教育専門ゼミⅠ</li> <li>子ども教育専門ゼミⅡ</li> </ul> <p>卒業研究</p>

## 子ども教育学科ならではの注目の科目

### ① 子どもと現代社会

子どもの発達と教育問題を3つの視点から考察していく

子どもの発達と教育に関する諸問題を多面的に検討し、解決の道を探る本学科。本授業はその入門であり、教育問題を考察、学生の問題意識を喚起して、その後の学びへとつなぐものです。授業は①教育学の観点から子どもの学力をめぐる問題、②教育心理学の観点から子どもの「こころ」や仲間関係をめぐる問題、③教育社会学の観点から地域社会と教育の関係について、社会のあり方と関連づけて考察していきます。

### ② 子ども支援地域活動Ⅰ

実践的に地域活動へ参加し子どもと地域の関係を見つめる

ボランティア活動などの地域を支える活動の意義、歴史と展開、現行の様々な活動内容と実際について理解するための導入指導を行います。その後、「放課後子ども教室」「放課後児童クラブ」「サマースクール」などの地域活動に参加。子どもの育ちに地域が果たす役割を理解し、それを支える活動の意味を把握するとともに、意義での学びを実践的な力へと発展させることを狙います。

### ③ 環境教育論

環境問題と環境教育についての体系的な考え方を身につける

先進国の経済発展に起因する環境問題、貧困、人権侵害などの諸問題。解決には個人、地域、学校など各界各層において環境保全への理解を深める必要があり、環境教育の役割が重要視されています。国連をはじめ、日本における環境教育の重点的推進もその表れです。本講義では、環境教育の意義理解、幼児や児童を対象とした環境教育の現状・問題点の把握、そのあり方について自分の考えを構築することを目標とします。

## ◎教員一覧

### 黒木 哲徳 教授

算数・数学の教材開発と授業研究、並びに教員養成のための数学内容の研究をします。

### 神田 嘉延 教授

子どもの未来を展望し、地域が基盤となる環境教育の成長への役割を教育社会学的に研究します。

### 澁澤 透 教授

「個」の形成や発達について日本文化論的な問題を視野に入れながら探求します。

### 遠藤 晃 准教授

野生動物の生態研究が専門。同時に身近な自然環境を教育へ生かす実践的な研究をします。

### 宮内 孝 准教授

子どもと教師の双方にとって楽しい体育授業を目指し、教材づくり及び指導法の研究をします。

### 春日 由美 講師

親子関係と心理的発達や適応との発達について、臨床心理学の視点からの研究をします。

### 西村 純子 講師

西洋クラシック音楽、民族・民俗音楽等を、哲学・社会学の視点から考察します。

### 趙 雪梅 講師

幼稚園と小学校の連携や小学校と中学校の連携の観点からの算数・数学カリキュラムの研究をします。

### 赤松 國吉 教授

子どもの内発的な興味関心に基づき、主体的能動的に学習に取り組む社会科教科教育を研究します。

### 古賀 隆一 教授

図画・工作教育の役割と造形創作活動の環境整備が研究課題。立体造形の教材研究を実施します。

### 矢口 裕康 教授

民話における「語り」についての研究をもとに、児童文化や保育・幼児教育を研究します。

### 黒川 久美 准教授

子ども理解と保育の内容・方法論、子育て支援論、障がい児保育論についての研究をします。

### 磯部 美良 講師

仲間はずれや無視といった子どもの仲間関係や攻撃性の問題についての研究をします。

### 國枝 裕子 講師

子どもたちが楽しく学べる学校とは?を、歴史的観点から理論・実践について研究します。

### 若宮 邦彦 講師

“相談援助”“スーパービジョン”“てあて”をキーワードにして臨床ソーシャルワークの研究をします。